2017 年 10 月

LINKtopos から
翔たいていった
仲間から

あなたへのメッセージ

公立大学 学生ネットワーク
LINKtopos

つながるちから

人はひとりで生きることはできない
誰かの助けを必要とし
誰かとつながって生きる

つながることで力が与えられ、
未来へ歩む
ありのままでいい
頑張らなくてもいい

そばに仲間がいる
ひとりじゃない
寄りそえば、笑顔が生まれ
向き合えば、話がはずむ

年齢も、国籍や言語も超えてつながる
そこで勇気が生まれる

手と手をあわせ、
みんなで作る　学びの場
みんなで育てる　わたしの街

光の中を　歩めばいい
一歩一歩　進めばいい
すべては　そこからはじまる

人は、心を開いて共に生きてくれる、
　いのちの存在を必要としている
そのぬくもりを外から伝えられて、
　新しいいのちの力を得る
そのような人に出会うと、
　本当の自分が見えてくる

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol. 1

井上 幹太（いのうえ かんた）

出身大学：兵庫県立大学工学部
（平成 28 年度卒業）
参加大会：第１回、第２回、第３回

【大学での地域貢献活動の内容について】
災害復興支援団体 LAN という団体に所属し、被災地支援ボランティア等を実施していました。主な活動は東日本大震災被災地へ農業支援活動の実施、地元関西で防災啓発イベント等です。
＃被災地ボランティア、＃防災啓発活動

【LINKtopos に参加したきっかけ】
きっかけは荒木さん(第２回代表)から第１回 LINKtopos をお誘いして頂いたことです。第１回大会では、１人の参加者として大会に参加しました。その大会の中において、たった２日間で全国の学生・教員・職員がそれぞれの垣根を越え繋がり合えること、そして繋がりから生みだされるパワーを体感しました。そのような場所をこの先も残していきたいという想いから、第２回からは運営側のひとりとして大会に携わるようになりました。そして第３回は代表として０（Zero）から大会を作り上げました。

【LINKtopos で得たモノ】
“高揚感”と“繋がり”ですね。大会では、学生・教員・職員の混合グループで、「本気で地域を良くするためのアクションプラン」を考えました。その中で、様々なアイディアが生まれる時の飛躍感、１人では到底思いつかないプランを形できた時の達成感、プランを作るためにチームが一つになる一体感、そのような日常では味わえない様々な高揚感が LINKtopos で得られました。それから、その場所で出会った仲間と繋がりを得ることができる貴重な場所でした。

【LINKtopos 後の変化】
大会後も継続して繋がれる仲間を得ることができたことです。当時、大学で所属していた団体で、自分の大会代表としての振る舞いや団体の今後の活動に悩んだ時期がありました。そんな時、LINKtopos で繋がったメンバーによく相談しました。LINKtopos では全国から多様なメンバーいて同じような立場や、全く違う立場から意見をもらえました。そのことがとても励みになり、悩みの解決に繋がりました。自分の大学で活動する団体や個人的な悩みを相談できる仲間を、大学の外に得ることができたのはとても大きな変化でした。

【現在の活躍】
現在、大学院生として都市計画学を専攻しています。もともと機械系の学部にいたのですが、LINKtopos や被災地支援ボランティア活動等を通じて、次第に地域コミュニティを創り・育むことに興味を持つようになりました。そして、”まちづくり“という視点から地域コミュニティや広く地域を創る・育む方法について学ぶことのできる現在の大学院に進学しました。ゆくゆくはこれまで培った学びを活かして社会をより良くしていくサービス又は事業等を自らの手で生み出していきたいと考えています。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol.2

山本　亜胡（やまもと　あこ）

出身大学：岩手県立大学社会福祉学部
（平成 27 年度卒業）
参加大会：第１回、第２回、第４回（第４回は職員として参加）

【大学での地域貢献活動の内容について】
「NPO 法人いわて GINGA-Net」の活動で、東日本大震災の被災地支援活動、大学１年次の学生が参加する地域でのフィールドワークの企画・運営等を行っていました。
＃被災地支援活動、＃地域でのフィールドワーク

【LINKtopos に参加したきっかけ】
第１回大会の１年前、静岡県立大学での学長会議と同時に開催されたワークショップに参加しました。被災地支援活動や防災活動に取り組む全国の学生が集まったその場で LINKtopos の計画が生まれ、その後の岩手県立大学での第１回大会開催に向けて、開催大学の運営メンバーとして携わり始めました。それから、兵庫県立大学での第２回大会へも参加、北九州市立大学での第４回大会には岩手県立大学の職員の立場で参加させていただきました。

【LINKtopos で得たモノ】
多様な立場・経験・感性をもった人が集まるからこそ生まれるプランの面白さです。元々、自分の考えや経験などを他人に話すことは苦手でしたが、LINKtopos で「新しいもの・面白いものを生み出す楽しさ」を実感してからは“苦手意識”が無くなりました。その場に集まった、人・立場・経験・専門分野などが融合しあい、そこでしか生み出せないものがあるからだと思います。その面白さを肌で感じることができるのも LINKtopos の魅力だと思います。

【LINKtopos 後の変化】
大学における“一体感”を生み出せたことです。LINKtopos の活動を行う前、学生は学生、教職員は教職員と違う立場という意識がありました。しかし、LINKtopos の「学生・教職員が同じ目線で話し合う、語り合う、考える」経験を通して、同じ大学における構成員（学生・職員・教員）が協働する面白さを見出しました。この経験をしてからは、学生という枠を超えて、大学全体で地域に出ていく、地域で活動するということを意識するようになりました。

【現在の活躍】
平成 27 年３月に岩手県立大学を卒業し、４月から同大学の職員として働いています。現在所属している部署は、直接学生活動を支援するような部署ではなく、どちらかといえば高校生やその保護者の方、高校教員との関わりの方が多いです。でも、「学生×教員×職員」の異なる立場での協働を行ってきた LINKtopos での経験は現在の仕事の中にも活きています。将来的には、LINKtopos のような学生の活動を支援するような部署へも異動をしたいと願っています。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol.3

日野浦 弘樹（ひのうら ひろき）

出身大学：大阪府立大学工学研究科
（平成 26 年度修了）
参加大会：第１回、第２回、第３回

【大学での地域貢献活動の内容について】
被災地支援、地域防災の学生団体「OPUfor3.11 ネットワーク」をはじめ、学生主導の大学広報団体「MICHI TAKE」、地域の大人との学びの場「essence」、地域と大学/大学生と高校生を繋げる「シェアキャンパス」を創設。地域における大学の可能性を探究した。
＃東北復興、＃地域防災、＃コミュニティー支援、＃教育

【LINKtopos に参加したきっかけ】
2012 年 11 月に静岡県立大学で行われた学生大会に参加。全国において地域貢献を現場で推進する学生たちが集まり、教職員・学長先生方とともに地域の未来を考える場に意義を感じるとともに、このような場の必要性を直感し、学生が主導する形での全国大会を構想。その場で出会った同志とともに提案しました。これを後に LINKtopos と名付け、2013 年 10 月に岩手県立大学を開催校に第一回を代表として運営。公立大学協会、学長先生などから多大な協力を得て、毎年一度開催する運びとなりました。

【LINKtopos で得たモノ】
LINKtopos を生むプロセスにおいて、困難に思える事柄でも Mission オリエンテッドに情熱を傾け、真摯に人と向き合えば響き、ある種の“ムーブメント”が起きるということ。それは、グラスに水を注ぐように、ある一定を越えると溢れ、そのパワーは加速度的に広がりを見せるということ。そして、それは時に自分の意図したものより大きく、育っていくということ。それを学びました。そして最後の残ったものは、年代、地域を超えた一生涯の仲間と志を同じくする方々との温もりある繋がりでした。

【LINKtopos 後の変化】
住み慣れた地域に別れを告げ、上京して四年目。大切な人をなくしたり、これまでの繋がりが失われたりといった経験をするとともに、新たに心温まる繋がりができたり、人との繋がりに大きな変化がありました。LINKtopos で感じたことは、「人との繋がりが人生を豊かにする」ということ。今感じるのは、「人との繋がりこそが人生の豊かさである」ということです。目を閉じた時に大切な人たちの顔が浮かぶこと、心の支えがあるということ、その人たちの幸せ、これから生まれてくる子どもたちの幸せのために命を使いたい。

【現在の活躍】
人/組織の変革を支援するコンサルティング会社に入社。シニアコンサルタントとして大手総合商社の基幹システム導入や自動車会社での業務整理、自社の新卒採用など幅広く経験を積んでいます。同時にソーシャルベンチャー/NPO の支援を行う非営利組織（SVP 東京）にパートナーとして参加。子どもの孤立の解消・予防に立ち向かう NPO との協働をリードパートナーとして率いています。「社会課題に立ち向かう人たちが活躍できる仕組みを作ること」を自分の Mission に、日々素敵な人たちとともに、もがいている最中です。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol.4

小笠原　果美（おがさわら　かぐみ）

出身大学：岩手県立大学社会福祉学部
（平成 28 年度卒業）
参加大会：第２回、第３回、第４回

【大学での地域貢献活動の内容について】
岩手をフィールドに、主に東日本大震災で被災した沿岸地域でのボランティア活動を行っていました。被災した子ども達への学習支援や、遊び支援を中心に、県内外の人々へ被災地の今を伝える活動など自由に楽しく！　色々なことをやってましたね(笑)
＃学習支援 ＃岩手 ＃いわて GINGA-NET ＃被災地

【LINKtopos に参加したきっかけ】
岩手県立大学は、LINKtopos 立ち上げ当初から多くの学生が関わっていました。そのうちの 1 人の先輩に「兵庫行きたくない？」（第２回全国大会の会場が兵庫だったので）と言われ、安易な気持ちで参加したのがきっかけでした。大学２年生、なんでも挑戦したい年頃でしたね。
その後、第３回目はお手伝いという気持ちで運営側にまわりましたが、気がつけば井上幹太さんに押され、第４回目の代表として北九州大会を開催していました。

【LINKtopos で得たモノ】
良くも悪くも、自分は全国の優秀な学生に勝るものは何一つ無いということに気が付きました(笑)　熱すぎるワークショップやポスターセッションを経て、プライドも何もなくなって、なんでも吸収して常に学ぶ姿勢でいようと思えるようになりました。そして第 4 代目の代表を務めたことによって、LINKtopos をはじめ自分には多くの貴重な人との繋がりがあり、自分のことを支えてくれる人の大切さに気付けたのは大きな財産だと思います。

【LINKtopos 後の変化】
LINKtopos では色々なことに長けている人が自然と集まるのですが、それだけでなくあつい想いと信念を持った全国の大学生・教員・職員と繋がることができます。その何がいいかと言うと、岩手に戻ってきてなんだか疲れたな、適当でいいかな…と思ってしまったとき、SNS などで頑張り続ける全国の仲間の姿を見て、自然とやる気が出てくるんです。“あぁ、もっと頑張らなきゃ”って本当に沢山のエネルギーをもらい、今まで以上に頑張ることが出来たと思います。

【現在の活躍】
2017 年４月から宮古市社会福祉協議会に入職し、ボランティアコーディネーターとして日々奮闘しています。大学時代、嬉しいことに全国の色々な地域に行かせていただき、色々な地域を見てきました。その中で私は、一つの地域に寄り添って、いつもおせんべいをくれるおばあちゃんとか、何回会っても私の名前を憶えてくれないおじいちゃんとか、そういう一人の人のために働きたいなと思うようになりました。そして、LINKtopos で代表をやらせてもらったことから、人と人を繋げる仕事をしたいと思うようになり、それが実現しました。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol.5

林　優名（はやし　ゆうな）

出身大学：神戸市看護大学
（平成２５年度卒業）
参加大会：第１回

【大学での地域貢献活動の内容について】

神戸市看護大学で SCHOP(スコップ)という団体に所属していました。主な活動は、①東日本大震災の被災地域でのボランティア活動です。②大学のある地域で住民さんと一緒に避難訓練や避難所体験などの防災活動などを行っていました。

＃被災地域支援　＃地域防災活動　＃ボランティア

【LINKtopos に参加したきっかけ】

LINKtopos に参加したきっかけは、立ち上げ当時から運営メンバーだったからです。

まず、LINKtopos を知ったきっかけは、当時すでに関西地区の運営メンバーであった神戸市外国語大学の中井和子さんからお誘いのメールが来たからです。そして、初めてのミーティングに参加したときに、各大学で、活発に被災地域支援や大学のある地域で活動している学生さんたちに刺激を受けました。そこから、LINKtopos の運営に関わるようになりました。

【LINKtopos で得たモノ】

“ひととのつながり”と “行動する勇気”

当時、看護大学に通っていた私にとって、全国各地の様々な学部の大学生や学長、教員や職員さんとの出会いは、自分が今まで経験してきた世界からグンっと視野が広げられました。全国で地域の課題に向き合い、行動している学生さんたちに感化され、想いをカタチにする勇気をもらいました。

社会人になった現在も関係が続き、より深い仲になり、一人ひとりが大切な存在になっています。

【LINKtopos 後の変化】

仲間と一緒に行動することで、想いをカタチにできるという自信がついたことです。

地域の課題解決に向けて、一人だけで、一つの団体だけで・・・ではなく、住民や他大学など垣根を越えて協働し合うことで、よりよい地域になるよう一歩ずつ前進することができました。

この経験は、社会人になってからも活かすことができ、看護師で働いていたとき、患者さんの課題を解決するために、多職種と連携することで、よりよい支援につなげることができました。これからは、それを学校現場で、活かしていきたいです。

【現在の活躍】

大学卒業後の２年間は、病院の看護師として働いていました。そこで、入院していた不登校の子どもたちとの出会いがきっかけで、現在、中学校で保健室の先生として働いています。子どもたちにとって第２の生活の場である学校で、子どもたちが心も体も健康で、元気に過ごせるお手伝いをしています。

毎日、子どもたちや先生方から学びをいただきながら、楽しく過ごしています。これからも、未来をつくる子どもたちに、自分は“いま”“ここ”で何ができるのか考えながら、丁寧に関わっていきたいです。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol. 6

新妻　茜（にいづま　あかね）

出身大学：茨城県立医療大学
（平成 26 年度卒業）
参加大会：第 1 回

【大学での地域貢献活動の内容について】
県内の中学校高校へ訪問し、デート DV.性感染症.HIV 等についてロールプレイや数種類のワークを用意、生と性を考える授業を行った。また保健所とピンクリボン活動やエイズ予防啓発活動を行った。＃ピアエデュケーション ＃生と性の教育 ＃保健体育 ＃地域保健 ＃ピンクリボン活動

【LINKtopos に参加したきっかけ】
学校側より LINKtopos に関するお知らせがあり、公立大学の学生が集まる機会がとても興味深かく、大学卒業前に新しい世界に飛び込んでみたいと思ったからです。

【LINKtopos で得たモノ】
他の大学の学生とディスカッション、情報交換することで、たくさんの刺激を受けました。他大学の活動のプレゼンテーションを聞き、それを持ち帰り、自分の地域・大学の特性をふまえてどんな活動ができるかを考えるキカッケをいただきました。
自分の大学内のみでは得られない情報や、問題解決の考え方、熱い想いモチベーションを共有できる仲間はいまでも本当に宝物です。

【LINKtopos 後の変化】
学校に持ち帰り共有することで、地域ボランティアサークル活動について再考する機会を設けました。今まで考えたことがなかった公立大学の在り方や存在意義、それを考えることが私のターニングポイントになり、残りの大学生活で、より地域や大学に愛着を持つことができました。
さらに後輩にもっと伝えていくことができたらよかったな・・・・と、卒業してから後悔しています。

【現在の活躍】
東京都内の整形外科で看護師として勤務しています。仕事をしている上では、都会という地域性でのコミュニティ構築や、地域包括ケアの難しさを感じます。そんな中で、プライベートで地域に住む方の健康相談や企業と連携し予防医学の推進ができるよう日々模索しながら活動しています。
LINKtopos の仲間と会って話すと、一見他の畑の話に思える内容のなかにヒントが隠れていたり、いまでも大切な仲間との繋がりはたくさんの活力を与えてくれています。

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声　Vol. 7

荒木　尊士（あらき　たかし）

出身大学：大阪府立大学大学院工学研究科
（平成 27 年度修了）
参加大会：第１回、第２回

【大学での地域貢献活動の内容について】
OPU for 3.11 ネットワークという団体に所属し、東日本大震災の被災地へのボランティア派遣、学内・大学周辺地域での防災啓発イベント、高校への出張授業などを行っていました。
＃被災地ボランティア、＃防災啓発活動

【LINKtopos に参加したきっかけ】
東日本大震災の復興支援活動に関わる学生が活動報告を行うシンポジウム(公立大学協会主催)に参加して、同世代の学生から学びや刺激を得るような機会を続けたいと思ったことです。また、大学で東北へのボランティア派遣を企画した際には、教員・職員からボランティアの心構えについてのレクチャーなどのサポートがあり、学生・教員・職員が一丸となることに可能性を感じました。そこで自ら企画した第１、２回大会では、活動報告だけでなく、学生・教員・職員が協力して創出できる価値についても議論を行いました。

【LINKtopos で得たモノ】
“公立大学の魅力”です。LINKtopos では他大学の学生・教員・職員との交流を通じて、大学には多種多様な専門領域、強みを持つ学生・教員・職員がいることを認識することができました。地域社会における知の拠点としての役割を持つ公立大学には、地域社会に対しての貢献という期待があると考えています。様々な強みを持つ学生・教員・職員が立場や大学の垣根を超えて地域社会の課題に取り組む環境を作ろうとする姿勢に対して魅力を感じました。

【LINKtopos 後の変化】
教員・職員との距離が近くなったことです。学内で会った際には雑談をするようになり、被災地支援や防災に関する活動に対して情報をもらえるようになりました。また、教員・職員が取り組む活動について相談を持ちかけられ、一緒に活動する機会を持つことができるようになりました。LINKtopos で学んだ、立場や考え方が異なっても理解し合い、共通の目的のために協力することを大学に戻ってから実践できたと考えています。

【現在の活躍】
情報・通信サービスを提供する企業において、ユーザに合わせて情報を抽出する技術の研究を行っています。東北でのボランティアの際に、自宅で取得する健康に関するセンサデータと、医療機関が保持するデータを組み合わせた解析についての事例を聞いたことがきっかけとなり、技術の力で地域社会と関わりたいと思い、現職に至っています。ゆくゆくは自ら企画したサービスを地域社会に提案していきたいと考えています！

あなたのメッセージ・体験談をお寄せ下さい　→　mbk750kanta@gmail.com ／itoyama@kodaikyo.org

＊＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊

公立大学学生ネットワーク
LINK topos

LINKtopos　参加メンバーの声

写真を張り付けてください

氏名（ふりがな）

出身大学：

（平成＊＊年度　卒業／在学）

参加大会：＊＊回

【大学での地域貢献活動などの内容】

＊＊＊＊

【LINKtopos に参加したきっかけ】

＊＊＊＊

【LINKtopos で得たモノ】

＊＊＊＊

【LINKtopos 参加後の変化】

＊＊＊＊

【現在の活躍状況】

＊＊＊＊